

第 145 回 滋賀県森林審議会 次第

日時 令和 6 年 7 月 19 日 (金) 13:00～14:00

場 所 滋 賀 県 庁 東 館 7 階 大 会 議 室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

琵琶湖森林づくり基本計画の点検評価について

4 閉会

琵琶湖森林づくり基本計画（第2期）

令和5年度事業実績に基づく進行管理と点検・評価 関連施策の事例

施策1 多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり**1 令和5年度の実施内容**

- ・ 条件不利地の人工林の針広混交林化や農業用水確保のための森林整備、道路等のライフライン沿いで危険木除去など、多様な森林整備を推進した。
- ・ 森林整備協議会などの場を通じ、市町が主体となった森林経営管理制度の推進を支援した。
- ・ 県内各地で再造林および災害に強い森林づくり等の促進に向けて、市町・森林組合・森林所有者などへの情報提供と意見交換を実施した。
- ・ 主伐・再造林の推進に向け、架線系作業システムの導入に取り組む事業者に対し支援した。

2 関連施策事例**（1）森林整備事業（造林事業）****事業内容**

人工造林、除間伐や枝打ち等の保育、森林作業道の作設などの森林整備を推進した。

令和5年度事業

728,711 千円（明許含）

森林整備（再造林、間伐等） 700ha

森林作業道開設 67,516m



再造林



架線による搬出間伐

（2）森林境界明確化支援事業**事業内容**

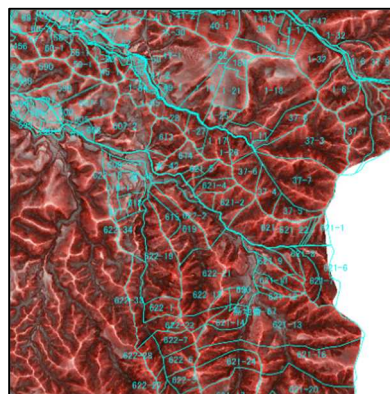
市町が実施する森林境界明確化の支援として、合成公図の作成と森林情報アドバイザーによる支援を行った。合成公図については、1,392ha を作成し県内市町に提供した。また、森林情報アドバイザーによる支援では、森林整備協議会の検討会で森林経営管理法に基づく境界明確化の考え方や航空レーザ解析結果を用いた境界明確化について検討を実施するとともに、境界明確化に利用できる森林情報を共有する森林クラウドの構築について検討を行った。

令和5年度事業

- ・ 森林情報アドバイザー制度推進事業 5,057 千円
- ・ 森林境界明確化推進事業 6,160 千円
- ・ 森林資源情報等解析業務委託事業 49,485 千円



森林整備協議会



微地形図と合成公図

3 今後の課題

- ・ 引き続き、地域の実情に応じた多様な森林整備を促進していく必要がある。
- ・ 再造林の促進については、森林所有者の植栽やその後の保育および獣害対策に対する負担感があるが、さらなる機運の醸成や施業の効率化によるコスト縮減等を図る必要がある。
- ・ 航空レーザデータ解析結果を用いることで、境界明確化の実施を効率化・加速化していく必要がある。

施策2 多様な主体との協働により進める森林・林業・農山村づくり

1 令和5年度の実施内容

- ・ 地域住民や森林づくり団体など多様な主体による森林づくりについて支援した。
- ・ 森林づくり活動に取り組む企業等に対し、琵琶湖森林づくりパートナー協定のほか、森林空間活用や木材利用など多様な形で森林と関われるよう支援を行った。
- ・ 計画的な除間伐に基づく J-クレジットの創出・活用について、新たに2団体に対しクレジット登録・創出の支援を行った。

2 関連施策事例

(1)「やまの健康」推進事業

事業内容

農山村地域では、過疎化や高齢化など、多くの課題が先行的に顕在化している一方で、森林空間を含む豊富な森林資源や美しい景観など、有形・無形の地域資源が多く残されている。

県では、地域住民自らが、森林等の地域資源を活かし、地域経済の活性化等を目指す活動を支援するとともに、都市部の多様なニーズに応えられるよう、森林空間を活用したサービスの構築等、「都市とやまをつなぐ」メニューの整備や体制づくり、人材育成に取り組んだ。

令和5年度事業

森の恵み活用促進事業費補助金（7団体） 3,318 千円

やまの健康推進事業（しが森林サービス産業創出事業委託等） 5,720 千円

びわ湖カーボンクレジットによる森林づくり推進事業 4,124 千円



SDGs エキスポ（東京ビッグサイト）で企業とのマッチング



森林サービス産業
（森林空間活用）



スギ・ヒノキのアロマオイル
（森林資源活用）

（2）第72回全国植樹祭後の取組

全国植樹祭の開催地である甲賀市において、企業や緑の少年団、県や市などによる植樹活動である「ポスト植樹祭」を現在も継続して開催するとともに、びわ湖水源のもりづくり月間である10月に、県内各地で森づくりイベント等を開催することで、県民の方々に森林づくりに関わる機会を提供した。

植樹祭を機に団員数が倍増した緑の少年団については、植樹祭後には新たに中学校団が結成されるなど、現在6千人を越えるまで増加しており、県内各地で緑の募金や植樹活動、交流大会など、継続した活動を行っている。



湖南省友好40周年植樹活動



ポスト植樹祭イベント（甲賀市）



3 今後の課題

- ・令和4年の全国植樹祭の開催を契機とし、県民に対し森林づくりや県産材利用について、一層の意識高揚を図る必要がある。

施策3 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

1 令和5年度取組内容

- ・川上から川中・川下に至る林業・木材産業の活性化に取り組んだ。
- ・県産材の効率的な生産のため、施業の集約化を促進し、また高性能林業機械の導入やトラック道の整備など、効率的な素材生産に対し支援した。

- ・木材流通センターが核となり、県内外の加工事業者に安定供給する仕組みの構築を支援した。
- ・住宅や公共施設、民間建築物などのあらゆる用途で県産材の利用を促進した。
- ・森林資源の新たな利用について、製品開発や研究に取り組む企業等を支援した。
- ・びわ湖材を活用した木育活動に取り組んだ。

2 関連施策の事例

(1) 木造建築設計推進事業

事業内容

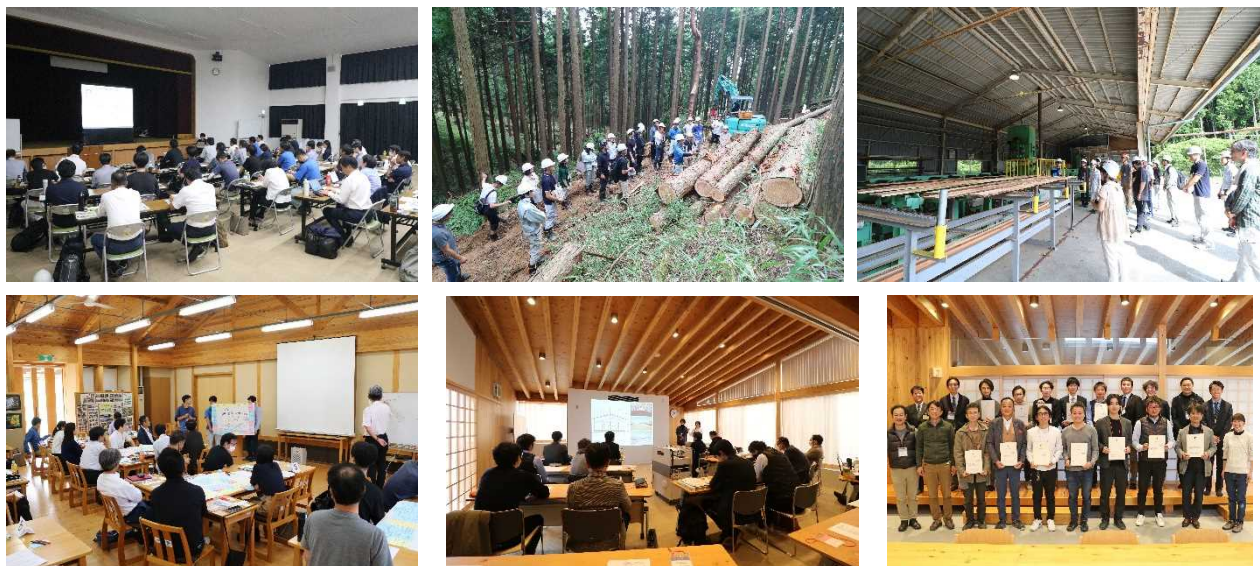
公共建築物等にびわ湖材を利用するためには、木造設計の基本的知識とびわ湖材の特性や流通状況を熟知した建築士や設計士（以下、「建築士等」とする）が必要。

このため、建築物に木材を使う意義や中大規模木造建築の設計手法、木構造・防耐火・耐久性等の専門知識、びわ湖材の特性や流通状況等について学び、びわ湖材の利用に精通した建築士や木材供給者、公共建築発注者を育成する「滋賀県木造建築セミナー」を開催した。

併せて、公共施設の発注部署や事業者に対して、公共建築物整備の構想や計画、設計段階において、「木造化促進アドバイザー」により県産木材の調達から木造設計についての具体的な助言による木造化の支援を実施した。

令和5年度事業費

委託費 5,459 千円



【滋賀県木造建築セミナー】

(2) 木育拠点施設整備推進事業

事業内容

滋賀県は平成29年（2017年）3月に全国の都道府県で初めて「ウッドスタート宣言」を行い、木育イベントの開催や保育施設等への木のおもちゃの貸出により、木に親しむ機会を県内各地で提供してきた。

本県で開催された全国植樹祭を契機に、令和5年4月に本県の木育の基本的な指針『つなぐ「しが木育」指針』を策定し、いつでも木に触れ合える常設型の施設となる拠点の整備を位置づけた。

令和5年度より、県立近江富士花緑公園にある既存施設「森林のわくわく学習館」等を改修し木育拠点施設として整備する検討を進め、関係者とのワークショップ開催と先進施設の視察を行った。

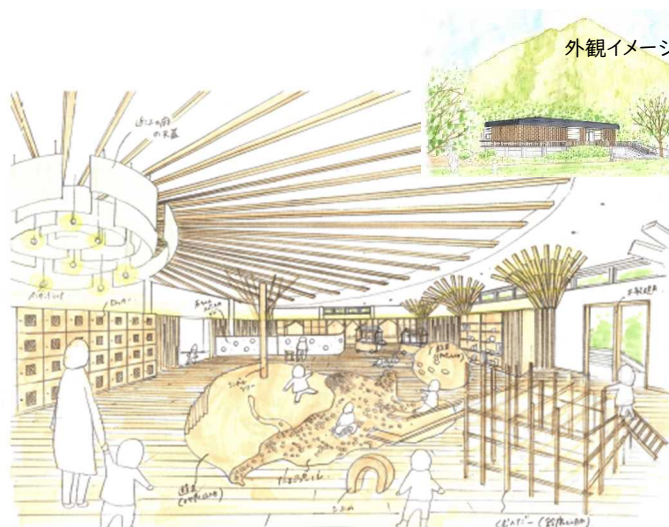
ワークショップは、県内の木育関係者に加え子育て支援団体や大学生、庁内の関係部局に参加していただき、木育の権威である埼玉大学の浅田茂裕（あさだ しげひろ）教授に進行をお願いし、議論や視察を重ねて、拠点施設の改修図面や拠点としての役割や機能を整理した。

令和5年度事業費

委託費 8,783 千円



森林のわくわく学習館 現況



木育広場（展示室1）イメージ

3 今後の課題

- ・引き続き、県産材利用促進条例制定を契機として、川上から川中・川下に至る林業・木材産業の活性化を促進していく必要がある。
- ・地域のニーズに応じた県産材の的確な供給などが必要である。
- ・木育拠点を整備し、木育の取組を県内全体に広げていく。

施策4 豊かな森林を未来に引き継ぐ人づくりの推進

1 令和5年度取組内容

- ・「滋賀森づくりアカデミー」において、安全かつ専門性の高い現場技術を有する人材の育成に取り組んだ。
- ・林業就業者や森林施業プランナー、林業に携わる市町の行政担当者の研修会を実施し、人材の育成に取り組んだ。
- ・森林の多面的機能や森林経営管理制度、労働安全、木材利用・木材加工等については座学による講義、GISの活用、森林経営については普及指導員を交えたワークショップ形式での講義を開催した。

- ・県内全ての小学校4年生を対象とした「やまのこ」など、あらゆる世代への森林環境学習や木育を推進することにより、森林づくりへの理解を促進した。

2 主な関連施策

(1) 林業人材育成事業

事業内容

- ・既就業者コース：2班 38名参加
- ・市町職員コース：14市町、のべ46名修了
- ・新規就業者コース 前期・後期6名修了

令和5年度事業費

森林・林業人材育成事業委託 42,672千円



▲【新規就業者コース】



▲【既就業者コース】



▲【市町職員コース】

（２）森林環境学習「やまのこ」事業

事業内容

- ・ 県内全ての小学校４年生（特別支援学校、外国人学校等も含む）を対象に、学校教育の一環として体験型の環境学習を実施
- ・ 原則として県内９箇所の受入施設で実施
- ・ 「やまのこ」専任指導員や教員への研修を実施することにより、学習の質の向上を図っている。
- ・ 231校 児童13,371人が参加

令和５年度事業費

森林環境学習「やまのこ」事業 110,177千円



【森林環境学習「やまのこ」】

3 今後の課題

- ・ 引き続き、人材の確保育成に努める必要がある。

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート

資料1

I : 基本施策

基本施策

				R元(現状)	項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	令和5年度進捗状況	R5年度達成率評価	R12(長期目標)	達成率	R12に向けた見通し	方針ごとの達成評価
1 多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり																					
1-1 持続可能な森林整備の推進	111 除間伐を必要とする人工林に対する整備割合	-	目標値	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	利用期を迎え高齢化する林分構成により、保育間伐をはじめとして森林整備の実施面積は減少する傾向にある。 ・間伐等の森林整備実施面積1,674ha（目標2,600ha）	B	90%	71%		・奥地での針広混交林化やライブライン沿いの危険木除去など、多様な森林整備に取り組んだ。 ・また森林の境界明確化の基礎資料となる合成公園の作成等にも取り組み、より多くの森林整備を確保することができた。 【今後の方向性】 ・引き続き、森林経営管理制度の推進等により、除間伐等の森林整備を確保しつつ、林業適地の適切な把握と主伐・再造林の促進に努める。
		54%	実績値	69%	67%	64%											A	15%	60%		
		-	達成率	77%	74%	71%															
	112 民有林の森林経営計画カバー率	-	目標値	10%	11%	11%	12%	12%	13%	13%	14%	14%	15%	新規樹立計画はあるものの、森林整備を行った後、更新しない計画も見られることから、カバー率としては伸び悩んでいる。 （経営計画作成面積 16,660ha、森林面積 183,907ha）	A	15%	60%				
		9%	実績値	10%	10%	9%															
		-	達成率	100%	91%	82%															
	113 合成公園作成面積（累計）	-	目標値	14,333ha	17,407ha	20,481ha	23,555ha	26,629ha	28,703ha	32,777ha	35,851ha	38,925ha	42,000ha	令和5年度に1,392haの合成公園作成を実施できており、主要な箇所については合成公園を作成できた状況となっている。今後も引き続き優先度の高い箇所を中心に年間1,000ha程度の合成公園作成を順次進めていく。 ※進捗率（34,060÷11,259）／（42,000-11,259）=74%	A	42,000ha （黒計目標）	74%				
		11,259ha	実績値	30,868ha	32,868ha	34,060ha															
		-	達成率	216%	188%	166%															
1-2 生物多様性の保全	121 下層植生衰退度3以上の森林の割合 ※衰退度3は半数以上の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地では約10%の森林で強度の土壌浸食が発生する衰退度 ※現状値：平成29年度	H29	目標値	-	10%	-	-	-	-	10%	-	-	-	下層植生衰退度3以上の割合は減少傾向であり、やや改善が見られた。ただし、これまで食害のなかったエリアで新たに食害が広がっていることから、今後もモニタリングが必要である。	-	10%	67%	-			
		19%	実績値	-	15%	-															
		-	達成率	-	67%	-															
2 多様な主体との協働により進める森林・林業・農山村づくり																					
2-1 多様な主体による森林づくりの推進	211 森林づくりに関する講座等への参加者数（累計） ※森林づくりに関心を持ち、積極的に関わる人材を養成するために、県や市町等が実施する講座や研修会等への参加者数	-	目標値	200人	330人	470人	600人	730人	860人	990人	1,120人	1,250人	1,400人	昨年度までコロナ感染症拡大のため、研修会の開催自体が少なかったが、6類移行後は各種研修会が開催できるようになった。 （内訳県民講座：34人、実践講座：125人、センター研修：43人、その他市町等開催：96人） ※進捗率（753÷66）／（1,400÷66）=51%	A	1,400人 （黒計目標）	51%		人や経済の循環を創出する「やまの健康」に向けた具体的な地域との関わりを創出し、農山村の活性化に取り組んだ。		
		66人	実績値	253人	455人	753人															
		-	達成率	127%	138%	160%															
2-2 森林の整備・林業の振興と農山村の活性化の一体的な推進	221 「やまの健康」を具体化する企業等が開わる取組数（累計）	R4年度	目標値	-	-	13企業等	15企業等	17企業等	20企業等	23企業等	26企業等	28企業等	30企業等	都市部（企業）の多様なニーズに応えられるよう、「琵琶湖森林づくりパートナー協定」をはじめとする「都市とやまをつなぐメニユー」の整備や体制づくりに取り組むとともに、人や経済の循環を創出する「やまの健康」に向けた具体的な地域との関わりへの支援を行った。 ※進捗率（17÷11）／（30÷11）=42%	A	30企業等 （黒計目標）	32%	-	【今後の方向性】 ・2022年全国植樹祭の開催を契機とし、引き続き県民等の森林づくりへの理解や参加を促進していく。		
		11企業等	実績値	-	-	17企業等															
		-	達成率	-	-	131%															
3 森林資源の循環利用による林業の成長産業化																					
3-1 活力ある林業生産の推進	311 県産材の素材生産量	-	目標値	131,000m3	142,000m3	144,000m3	147,000m3	150,000m3	153,000m3	156,000m3	159,000m3	162,000m3	165,000m3	森林組合系統および素材生産業者における素材生産量は、年々増加傾向にあるものの令和5年度は前年度より増加したものの目標値には届かなかった。施策集約化や間伐等の森林整備が目標に届かなかったこともあり、目標を達成できなかったものと考えられる。 今後引き続き、幅広い利用や需要に応じていけるよう、目標達成に向けて、素材生産の一層の拡充に取り組む必要がある。	B	165,000m3	61%				
		100,800m3	実績値	99,400m3	98,800m3	100,800m3															
		-	達成率	76%	70%	70%															
3-1 活力ある林業生産の推進	312 林業就業者の平均給与	R3年度	目標値	-	-	3,513千円	3,628千円	3,739千円	3,852千円	3,965千円	4,078千円	4,191千円	4,300千円	雇管理の改善等に取り組む林業事業者を法令に基づいて県で認定しており、その林業事業者（15社）の平均給与を指標としている。 固定率							

個々の取組みの達成率の評価 A: 90%以上 B: 70-89% C: 50-69% D: 30-49% E: 30%未満

見通しの評価 上向き:単年評価Aかつトレンドが上向き 下向き:単年評価がC以下かつトレンドが下向き 横向き:それ以外(状況を注視) ー:評価不可

Ⅱ：重点プロジェクト【5年間の取り組み】		R元(現状)	項目	R3	R4	R5	R6	R7	進捗状況	R5年度 達成率評価	R7(目標)	達成率	達成率評価
1 花粉の少ない再造林 促進プロジェクト	1-1 年間再造林面積	－	目標値	20ha	27ha	35ha	43ha	50ha	再造林について、補助率の見直し等の強力な支援や森林所有者等への働きかけを行い、目標を達成することができた。	A	50ha	84%	B
		11.5ha	実績値	19ha	30ha	42ha							
		－	達成率	95%	111%	120%							
2 災害に強い森林づくり プロジェクト	2-1 ライフライン保全整備箇所数(累計) ※関係者との適切な調整のもと、予防的に伐採 処理等が行われた箇所	－	目標値	5箇所	10箇所	15箇所	20箇所	25箇所	市町、森林所有者およびインフラ施設管理者と連携し、インフラ周辺の森林整備等に取り組んだ。	A	25箇所 (累計目標)	128%	A
		－	実績値	11箇所	25箇所	32箇所							
		－	達成率	220%	250%	213%							
3 「やまの健康」推進プ ロジェクト	3-1 地域資源の活用に取り組む森林・ 農山村団体の数(累計)	－	目標値	7団体	9団体	11団体	13団体	15団体	令和元年以降累計で、「やまの健康」モデル地域の関係団体やその他地域で活動する21団体に対し、地域資源を活用した商品やサービスの開発に向けた取組について支援した。 ※進捗率 (21-5)/(15-5)=160%	A	15団体 (累計目標)	160%	A
		5団体	実績値	16団体	18団体	21団体							
		－	達成率	229%	200%	191%							
4 公共建築物木造化プ ロジェクト	4-1 県産材を活用する建築設計に関す る支援を行った公共建築物数(累計)	－	目標値	10件	15件	20件	25件	30件	県および市の整備する公共建築物に対して、木造化促進アドバイザーによるアドバイスをを行った。県産材による設計や工事発注による利用拡大、調達可能な木材による適切な価格や工期設定による施設整備の着実な実施、発注者や設計者の木材利用に関する理解醸成による公共建築物の木造化の推進が図れた。 ※進捗率 21/30=70%	A	30件 (累計目標)	70%	B
		－	実績値	10件	17件	21件							
		－	達成率	100%	113%	105%							
	4-2 産業用建築物における木造率 ※建築住宅着工統計における公共建築物と民間 非住宅の合計	－	目標値	6.3%	6.8%	7.3%	7.8%	8.0%	公共建築物への木材利用を促進する取組により、産業用建築物の木造建築物の着工数は前年度と同等であったが、建築物全体の着工数は減少するものの床面積の合計は増加しており、規模の大きな建築物(鉄骨造の事務所用途)が増えたため、木造率が減少したと考える。	B	8%	81%	B
		5.8%	実績値	7.4%	7.9%	6.5%							
		－	達成率	117%	116%	88%							
5 木質バイオマス地域 循環プロジェクト	5-1 エネルギーとして利用される木質バ イオマスの量	－	目標値	23,200絶乾トン	24,900絶乾トン	26,600絶乾トン	28,300絶乾トン	30,000絶乾トン	素材生産量の伸びに応じて、エネルギーとして利用される木質バイオマスの量も若干増加し、目標は達成できた。 発電：28,564絶乾トン 熱利用：118絶乾トン	A	30,000絶乾トン	96%	A
		21,497絶乾トン	実績値	31,475絶乾トン	28,155絶乾トン	28,682絶乾トン							
		－	達成率	136%	113%	108%							
6 木育活動促進プロジェ クト	6-1 木育指導者の数(累計)	－	目標値	5人	7人	9人	12人	15人	以前から活動されている2名の木育指導者と協力し、木育講座を開催し、木育指導者の育成を図った。また、講座に参加された方に木育イベントにも参加していただき、今後の指導者としても活動につながるよう取り組んだ。 ※進捗率 9/15=60%	A	15人 (累計目標)	60%	C
		－	実績値	2人	6人	9人							
		－	達成率	40%	86%	100%							
7 林業人材育成プロジェ クト	7-1 滋賀もりづくりアカデミーにおける既 就業者コースで技能向上に取り組む作 業班数(累計)	－	目標値	13班	18班	28班	38班	50班	R元年度から開始した基礎研修は、支援対象となる全作業班に対し研修を行った。技能向上の研修についても全作業班について行う予定であったが、育成対象とする作業班を絞り込み、内容の充実をはかった育成に変更して取り組んでいるところ。 ※進捗率 10/50=20%	D	50班 (累計目標)	20%	E
		－	実績値	7班	8班	10班							
		－	達成率	54%	44%	36%							

個々の取組みの達成率の評価 A：90%以上 B：70－89% C：50－69% D：30－49% E：30%未満